

ヨシユカです。ドイツから来ました！高校を卒業後、大学入学前にアジア学院に来たとき、僕は18歳でした。

ドイツではすべての男子が、18歳になると兵役もしくは社会奉仕活動に就くことになっています。そして希望すれば、海外で活動することも出来ます。

僕は国際開発やNGOに関わる仕事、国際的な諸問題に対して自分の体験から考えるため、そしてこの活動期間を実のあるものにするために、2005年の9月から2006年の8月までの11ヶ月間、アジア学院にボランティアとしてこの活動期間を捧げることにしました。

アジア学院での毎日の生活は二つに分けられます。フードライフワークと個々の担当に分かれての仕事です。

一日に二回、朝と夕方、一時間づつフードライフワークのための時間に当てられ、僕は学生と共に農場を担当しました。

フードライフワークはアジア学院の重要なコンセプトであり、この活動を通じてアジア学院の哲学に深く、実践的に触れることが出来ます。

また同時に、学生との他愛のないおしゃべりや、時には内容の濃いディスカッションを楽しむことが出来ます。

日中の仕事では、日本人スタッフのミチさんのもとで学生選考を担当しました。

学生選考では次年度の募集に申し込んできた学生の選考とともに、1000人にも及ぶアジア学院卒業生との卒業後のやり取りを担当しました。

この仕事で世界に広がるNGOや教会、草の根ネットワークを、手紙やe-mailを通じて知ることが出来ました。

世界中の農村指導者からのアジア学院学生への申し込みを受けて、私たちはアジア学院の使命や理念、実践的なトレーニングプログラム、共同生活、どのような農村指導者を育成しているかなどの情報が盛り込まれたパンフレットを返送します。

そして同時に、彼らの活動への理解、活動地域の人々の要請が、アジア学院のトレーニングプログラムにふさわしいものか調査するために、彼らの地域の状況、どの程度の教育を受けたのか、地域での活動の背景などについて、いくつかの質問を再度返送します。

11月には、アジア学院スタッフが会議を開き、学生申請者の選考を最終決定します。そして受け入れが決定した学生について、日本への渡航の調整やヴィザの取得など、4月にアジア学院に到着するまで私達がサポートします。

学生にとって学生選考部門は、9ヶ月の研修プログラムの窓口です。ミチさんとの仕事を通じて、僕は大きな責任感を背負っていることに気づきました。

与えられた責任の大きさは、アジア学院でのボランティアを楽しむことが出来たひとつの大きな要因でもあります。

もうひとつの大きな仕事である卒業生調査は、一年に二度、国際的なNGO活動の動き、科学的なリサーチ報告、アジア学院についての最新の情報を掲載した、NETWORKという会報誌を編集し卒業生に送付します。またこの会報誌にはアジア学院の卒業生の活動状況も掲載されています。

この定期的な活動によって、卒業生と個人的なつながりを持つことができ、そして現在のアジア学院の研修プログラムに、どのように卒業生がアジア学院で得た知識を活動地域で生かしているのか、地域に戻った後に、どんな困難に直面しているのか、今日的な世界の貧困地域の状況に、アジア学院の研修プログラムの焦点をどうあわせるか、という現地の声を基にした、効果的な研修プログラムのフィードバックを可能にします。

学生選考と卒業生調査では、アジア学院が日本の、また国際的に活動するNGOとして担っている役割や将来的な展望を知り、同時に世界各地の本当の声を学生から直接聞くことができ、僕は心から感動しました。インドネシアやハイチからの報告書や見解、将来的なビジョンを読んでいると、まるで世界の全てと僕が繋がっているように思えるのです。

スタッフや学生、ボランティア、そして多くのビジターにとって働くことに対する熱意は研修プログラムの達成、成功において、欠くことのできないものです。しかしボランティアとしての重要性と共に、アジア学院のメンバーとして生活すること、ただそれだけでもアジア学院が豊かで、より喜びのある場所であるために、必要不可欠なことなのです。

アジア学院では一度もさみしさを感じたことはありません。本当に最初の日からアジア学院のメンバーは僕のことを「ようフレンド！」と呼んでくれました。このアジア学院で過ごした一年を通して、この言葉は単に見せかけのものではないことを知りました。畑で学生と共に過ごした時間、オフィスの仲間たち、食事を用意してくれたキッチンスタッフ、おいしい食事と生活を共にした時間、毎朝のチャペルでの信仰の時間、ルームメイトや同じ屋根の下で暮らした住人と共にいると、そこはまるで自分の家のように、すばらしい友人たちと共に過ごした時間を、ドイツに戻り、歴史と英語の勉強を大学で再び学び始めた今、僕は本当に懐かしく思います。

100人近いアジア学院のメンバーとの人間的な関係を通じて、世界について多くのことを知ることができ、素晴らしい目的のために共に働き、生活することを長期間にわたって経験し、僕は今、百科事典を読み終えたような気分がします。アジア学院で得たこと、受けた衝撃は僕の内側にとどまり、今でも僕を勇気付け、喜びを与えてくれるのです。絶対に僕はこの思い出を忘れません。